

名古屋第二赤十字病院で診療を受けられる患者さんへ

～臨床研究に関する情報公開について～

当院では、下記の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報等の診療情報を研究目的に利用されることを希望されない場合、または研究の詳細についてお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。

研究課題名	術中神経モニタリングの効果に関する研究		
研究実施予定期間	院長が研究実施を許可した日 ～（西暦） 2025年 12月		
研究実施診療科	移植・内分泌外科		
研究の倫理審査等	治験・臨床研究審査委員会審査日	2015年 4月 27日	
	院長が研究実施を許可した日	2015年 5月 12日	
対象となる方	対象期間内に名古屋第二赤十字病院移植・内分泌外科において、二次性副甲状腺機能亢進症にて手術を受けられた患者様		
対象期間	（西暦） 2010年 5月 ～（西暦） 2025年 12月		
当院の研究責任者	所属	移植・内分泌外科	氏名 平光 高久
主たる研究実施機関 （多施設共同研究の場合）			
研究の意義	腎性副甲状腺機能亢進症の副甲状腺全摘術において、迷走神経、反回神経の温存のため術中神経モニタリングを使用しています。迷走神経、反回神経は声帯を支配している神経で、手術操作によって、これらの神経が麻痺すると声帯麻痺となり声がれ、むせなどの原因と成ります。声帯麻痺予防のために、術中からこれらの神経の温存を確認しながら手術をすすめる事が可能となる術中神経モニタリングを併用しています。この術中神経モニタリングが実際に解剖学的、機能的温存に役立ち、最終的に声帯麻痺を予防することができたかについて成績評価を行い、今後の診療に役立てます。		
研究の目的	腎性副甲状腺機能亢進症における副甲状腺全摘術では、術後の声帯麻痺を予防するため、迷走神経、反回神経の温存が必須です。迷走神経、反回神経が手術中の操作で解剖学的、機能的に損傷されると、最終的に声帯麻痺となり、声がれ、むせなどの原因と成ります。このような合併症を予防するために、術中に反回神経の解剖学的、機能的温存を確認しながら手術をすすめることができる術中神経モニタリングを使用しています。術中神経モニタリングの仕組みは、術中に反回神経、迷走神経に電氣的刺激を加えると、これらの神経に支配されている声帯に刺激が届き、声帯が動きます。その動きを挿管チューブに付いているセンサーで感知することにより確認することが可能となっています。これにより、反回神経、迷走神経の解剖学的な位置の特定を容易		

	にし、機能的に温存されているかを確認しています。さらに、実際に迷走神経、反回神経が温存されていることを確認するために、術後、耳鼻科医師により声帯麻痺の有無を確認しています。この研究の目的は、この術中神経モニタリングの診断精度、有効性を評価する事です。
研究の方法	対象となる方において、術中神経モニタリングの結果、術後の耳鼻科医師の声帯麻痺についての診断、さらに臨床情報などを診療録から振り返って収集し、この術中神経モニタリングの診断精度、特異度、正確度、有効であった症例について検討します。
研究に使用するもの	診療録から年齢、性別、透析期間、観察期間などの基本情報、術中神経モニタリングの結果、術後の耳鼻科医師の声帯麻痺についての診断、さらに採血検査結果などを、匿名化した上で使用します。
結果の公表	論文、学会発表予定です。
個人情報の保護	個人情報は対象者が特定できない形で取り扱い、本研究以外の目的では使用しません。
研究の資金源	本研究への資金提供はありません。
利益相反	本研究に関する利益相反はありません。
知的財産権	特にありません。
問い合わせ先	名古屋第二赤十字病院 移植・内分泌外科 平光高久 電話 052-832-1121 (代表)